

# ほつかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎ 011-210-5802 FAX 011-210-5826

第13回北海道新聞教育研究大会兼  
第13回北海道NIE研究大会  
開催された第46回全国新聞  
教育研究大会「中学校NIE・総合」の分科会において、実践校としての取り組みを発表する機会を得ました。さらに11月には、第9回北海道NIE研究大会兼

初めて本紙に寄稿したのは第3号（2003年4月発行）です。振り返ればこの年は、私自身にとってさまざまな経験ができた年でありました。

当時勤務していた西岡北中はNIE実践指定校だったのですが、たまたま03年度に新設された北海道NIE推進協議会独自認定校になりました。幸運にも実践を継続することができました。

また、8月に北九州市で開催された第46回全国新聞教育研究大会「中学校NIE・総合」の分科会において、実践校としての取り組みを発表する機会を得ました。さらに11月には、第9回北海道NIE研究大会兼



札幌市立陵北中学校長 豊島 義明

## 新聞の魅力を伝えたい

人間です。管理職になつて以降は、直接生徒に対して新聞を使つた授業はできなくなりましたが、北海道NIE研究会の運営を通して、途切れることなく新聞に関わり続けることができました。

12年8月発行の本紙59号にも書いたのですが、学習指導要領の改訂で新たに創設された「総合的な学習の時間」で、何とか新聞を活

用できないだろうかと思ふのですが、その後今まで新聞と関わるきっかけでした。新聞休刊日は、朝から1日中調子が出ないなど、私は根っからの新聞大好き

ました。02年8月札幌で開催された第7回NIE全国大会に初めて参加して以降、昨年の第19回徳島大会まで通算7回、各地で開催された大会に参加しています。

「全国大会」という場所は、大きく広げていければと思う」とのコメントが載りました。その時、自分が話した中の一つが、今でもつきり記憶に残っているのです。

「全国大会」という場所は、当然そこに集まる全ての人たちがNIEを良く知っている。でも、NIEの事をまだ知らないの方が多いという現実を忘れてはならない」

それから10年を経た直近の徳島大会に参加しても、私が新潟で感じたその思いに残念ながら大きな変化はありません。秘策があるわけはないとは思いつつ、NIEの将来をより明るく照らすべき方策はないものか

交流する同ゼミ恒例のイベント「シャベツセ」の一環。

学外の中学校教員らと新聞活用の授業「NIE講座」を受講している道教育大旭川校社会科教育ゼミの学生が2月14日、同大付属旭川中で新聞を使った模擬授業にチャレンジした。テーマは「世論とマスメディア」。公民分野の教科書（帝国書院）に合わせた学習指導案も作成し、教員養成大学ならではの実践的な授業に仕上げた。（関連記事は2面に）

学生によるNIEに関する授業は初めての試みという。同日は、ゼミ生のほか

道教育大旭川校社会科教育ゼミの学生が2月14日、同大付属旭川中で新聞を使った模擬授業にチャレンジした。テーマは「世論とマスメディア」。公民分野の教科書（帝国書院）に合わせた学習指導案も作成し、教員養成大学ならではの実践的な授業に仕上げた。（関連記事は2面に）

## テーマは「世論とマスメディア」

# 旭教大生NIE模擬授業



模擬授業で教壇に立つ  
加藤直也さん

2人は、教材として「ゼミ長選挙」をテーマに新聞2種類を作った。授業のためにゼミ生30人に対して行った「世論調査」を基礎データにし、一番多い10人の支持を集めた高橋君に焦点

を当てた新聞は「高橋君一歩リード」の見出しを立てた。さらに2位で8人が支持した反橋君の追い上げに力点を置く新聞は見出しを「高橋君に焦りの色」とし、授業では、生徒役の学生や教員らに二つの新聞を熟読してもらい、同じデータを使っていても記者や新聞社によってまったく異なる記事になる場合があることを考察させた。

その上で2人は、新聞は選挙の際の世論形成に大きな影響力を持つとし、「一つの情報をうのみにするは危険。複数紙を読み比べたりして、情報を上手に使いこなすことが大切です」とまとめた。

# オリジナル新聞 親子仲良く挑戦

帝  
店

当協議会主催の2014年度地区セミナーを締めくる第13回帯広・十勝セミナーが2月7日、帯広市内の十勝農協連ビルで開かれた。写真。

が講師となつて新聞活用講習会を行つた。印象に残つた記事を切り貼りするオリ

ジナル新聞づくりに挑戦し、幕別町の女子児童は「写真を切り抜いたり貼つたりするのが楽しかった」と笑顔で話した。

岩国ヤミナード

後半は、清水町立御影中の安食正人教諭、幕別町立明倫小の菅原晴彦教頭、帶広柏葉高の田口耕平教諭の3人が、実践事例を発表した。

農などの地域産業に関する記事を使つて、生徒の保護者が経営する農場などを取材した実践例を報告。「酪

（同・名寄市立風連中央小）などを含め前年度に比べ4カ所増やしたほか、公開授業を9カ所で実施し

母校で人材育成

菊池さん、福澤さんの2人

道教育大旭川校の「NIE講座」は、元NIEアド

バイザーの菊池安吉さん（士別市立士別中校長）と、

二十一 実踐奮闘記

富久尾 崇

新篠津中教諭



私がNIE実践に挑戦しようと思ったのは、教員4年目の2013年度のことです。全学年の社会科を担当していたので、「使える題材が多い」と

国際問題から政治、経済、社会、生活に関わることなど、毎日のように膨大な量の記事が掲載され、流し読みして整理するだけで時間が費やされる日々が続きました。せっかくの情報も消化しきれず、ファイルに入れたまま、新鮮さを失つてしまふ始末でした。

「軸を決めよう」—。そ

う思い立ち、前任の函館市立大川中では、「生徒

を聞いて自分の意見がどう変容したかを自分の言葉で書くという「Tall king」「Thinking」の3段階で学習する取り組みも行いました。

家の経営が苦しくなくていいと、大人たち以上に困るのは将来のふるさとを担う子どもたちです。そこで考えたNIE実践のテーマは、新聞を通して「ふるさと」を知り、考えて、「つくる」こと。「未

ら、村の将来、生き方などについての対談や生徒からの質問コーナーを設けた授業を行いました。話題となつてゐる「消滅可能性都市」の一つとして名前が挙げられた新篠津村。自分たちのふるさとを100年先も残す

## 教材としての「価値」追つて

来のふるさとの主役となるのは「子どもたち」という思いで授業づくりを行いました。

「地方創生」「地域の活性化」「TPP」などをキーワードに記事収集に当たり、今年の2月には、実際に新聞で記事となつた農家の方をお呼びし、有機栽培や6次産業など先進的な取り組みか

方法は、教科書を読むだけではわかりません。まさに今、直面している社会の問題を捉え、自分の頭で考えその解決のためには自分はどう行動するか。新聞が持つ価値の一つは、現実の社会で現在進行形で起こつている（そして、答えのない）問題に、どう立ち向かつていけばよいかを考えさせ

3年7月に始まつた。  
2人の母校でもある教員養成の同大旭川校で、より効率的な人材育成を図ることを狙いとした。2人は「新聞を活用した授業のできる教師が一向に増えたくない。その現状を少しでも改善したかった」と話す。開講は年2回のペース(1回約100分)。日の朝刊各紙と教科書を使つて授業をする。

本年度の目標は「6次産業体験」。新聞を通して学んだことを、実際に体験して、自分が抱えている問題を解決するための糸口を考えさせる。生徒にとつても挑戦ですが、私自身も新しいことにどんどん挑戦をしていきたいと思いま

たつてある。また、昨年12月のNIE旭川セミナーでは、社会科教育ゼミの学生も参加させた。

講座を受けた学生の中から、在学中から新聞を購読し、教員採用試験・中学社会科にパスした畠山展大さんをはじめ、将来のNIE活動を担う人材が育っている。

全体の参加者は合わせて610人で、最も多かつたのは3月5日開催の北玄

このほか、12月9日の室蘭・胆振セミナー（同・室蘭市立地球岬小）の59人、1月10日の安平・田坦セミ

全体の参加者は合わせて  
610人で、最も多かった  
のは8月5日開催の北広  
島・古寺セミナー（同・北

このほか、12月9日の室蘭・胆振セミナー（同・室蘭市立地球岬小）の59人、1月30日の安平・日胆セミナー（同・安平市立早来小）

# 日教組教研集会（甲府）で

主な実践は、2013年4月に入学した特進コース1年生を対象とする「国語進学講座前期授業」。全14コマ（1コマ100分）で構成しており、大学入試の過去問題を解かせて、入試レベルをつかませることを手始めとした。

このうち新聞活用に関しては、同推進センター委員と数ヶ月間かけて突っ込んだ協議を重ねて計画表を策定した結果、計9コマもの時間割を割いた。見出しや写真の役割はじめ紙面に関する基本的な知識を教える同委員の講話を

皮切りに、約3千字の長文記事の要約のほか、自ら選んだ記事を基に①自分の意見②その意見の根拠③反対意見（別視点）④まとめ、の四つを柱とする意見文（800字）を書かせるなどのカリキュラムを組んだ。

また、こうした取り組みを土台に2年生に進級した生徒たちが昨年の夏、プレゼンテーション用のイラスト入り書評（B4判）を作った。東野圭吾の小説「真夏の方程式」を選んだ生徒は、新聞の見出しに相当するキヤツチコピーを「愛すべき嘘と、憎むべき秘密」とし、アピールしたい作品の中身を約千字まとめた。

同校は10年度から週1回、「朝読書」で新聞社のワーキング会場に開催され、延べ約1万人の教職員が集まつた。甲府・アイメツセ山梨をメイン会場に開催され、延べ1万人の教職員が集まつた。岡部教諭は「国語力を伸ばすにはある模索と可能性」をテーマに7日の日本語教育分科会で、国語進学講座前期授業の成果を発表。新聞記事をもとにして生徒が書いた約400字の意見文などを紹介しながら、「自分の言葉で語る引き出し」が増えた。読む力、書く力の向上に手応えを感じている」と締めくくり、大きな拍手を浴びた。

岡部教諭は「まだまだ十

## 岡部教諭（札静修高）が実践発表



日教組教研集会で実践発表する札幌静修高校の岡部教諭（中央）

## 冬休みに親子で参加 新聞スクラップ教室

出しを書いて完成させる「オリジナル新聞」の作り方を分かりやすく指導した。

興味のある記事を切り抜いてスクラップ新聞を作成する「第4回冬休み親子新聞スクラップ教室」が1月10日、札幌市中央区の北海道新聞本社で開かれた。

小学生とその保護者が対象で、長期休暇を利用して新聞に親しんでもらうことが多い。北海道新聞

社販売局などが主催し、NIEコーディネーター（当時）の日下部憲一さんと市内の小学校教師6人が講師を務めた。

教室には78人の親子が道新聞本社で開かれた。参加。初めに日下部さんが、気に入った記事を探して切り抜いて専用の台紙に貼り付けた後、感想や見



熱心にスクラップ作りに取り組む親子

## 5月9日に 総会を開催

推進協・道NIE研

## お知らせ

北海道NIE推進協議会（高辻清敏会長）は5月9日午後1時30分から、2015年度総会を札幌市中央区大通西3の北海道新聞社7階特別会議室で開く。

14年度の活動報告と決算認定のほか、15年度の活動計画案と予算案、役員認定といった議案をそれぞれ審議する。終了後はNIE懇

NIE地区セミナーの開催は、14年度の13地区から、小樽・後志と留萌の2地区を増やし計15地区に拡充する予定。

一方、授業などで新聞を活用する教員の全道組織、北海道NIE研究会の定期総会も同日午後1時から、同社2階のNIEプラザで開かれる。総会では豊島義明氏（札幌市立陵北中校長）が会長を退き、副会長の上村尚生氏（札幌市立稻穂小学校長）が会長に就くなどの役員改選も行う。



＜略歴＞たけうち・ひろゆき 1957年7月、宮城県石巻市生まれ。東北学院大（仙台市）卒業後、80年4月に石巻日日新聞社入社。警察・司法担当を振り出しに、石巻地方の経済を支える水産加工業と漁業のほか、市政などを担当した。東日本大震災の発生時は報道部長として手書きの壁新聞作りの陣頭指揮に当たった。2012年11月から取締役報道担当常務。

## 編集後記

○…「乞食でないだもの。芸でじえんこ（お金）もらってるんだもの」。晩年のリサイタル。話芸にも優れていた津軽三味線の初代高橋竹山（故人）が、門付けで糧を得ていた不遇の時代を回想する。プロとしての意地、矜持一。そんな言葉が脳裏をよぎり、同時に卓越した演奏を堪能したものだ。

○…三味線の糸が切れスペアがなかった時、暴風雨や大雪の日、竹山は得意ではなかったぼろぼろの尺八を吹いて家々を回ったという。東日本大震災の際、手書きの壁新聞を発行し続けた石巻日日新聞社。その中心にいた武内宏之さんの話を聞きながら、何度も竹山のことを想起し、武内さんと重ね合わせた。

○…尋常ならざる激しい揺れ。新聞社にとって生命線とも言えるパソコンや輪転機はピクリとも反応しない。その極限の中で「手書きで…」の決断は、新聞人としての矜持だったのではないか。武内さんのような人たちが新聞というメディアを支え、今日をあらしめてきたのではないか。つらつらとそんなことを考えている。（葛）

電気の復旧は、震災8日後の3月19日でした。カラ一印刷ができる輪転機は浸水して使えず、古い白黒輪転機で印刷をしました。午後2時すぎだったと思いま

す。約30人の社員全員が寝を呑んで見つめる中、始動ボタンが押されました。

「カタカタカタ」って小さな機械音が聞こえ出しまし

た。ライフラインがストップして輪転機も稼働しない中、宮城県石巻市の夕刊紙「石巻日日新聞社」は6日間にわたって手書きの壁新聞を発行し、被災者に生活情報を伝え続けた。壁新聞は「報道の灯」を守つた証しとして、米ワシントンにあるニュース博物館「ニュージアム」で永久保存されている。震災時、報道部長だった同社常務の武内宏之さん（57）に新聞制作にかかる胸の内を語つてもらった。（構成・葛西信雄、2回連載します）

## 記者の証し手書きの新聞 石巻日日新聞社常務

電気の復旧は、震災8日後の3月19日でした。カラ一印刷ができる輪転機は浸水して使えず、古い白黒輪転機で印刷をしました。午後2時すぎだったと思いま

す。約30人の社員全員が寝を呑んで見つめる中、始動ボタンが押されました。

「カタカタカタ」って小さな機械音が聞こえ出しまし

**新聞って  
ステキ！**

武内 宏之さん 5

（上）

た。「おつ」「いけるぞ！」。われわれの大きなほどよめが、それにかぶさります。輪転機で印刷される新聞を奇跡を見る思いでながめました。今でも忘れません。鼻に新聞をこすり付けていた若い社員が「インクつて、ホントいい匂いがする」と言つたのです。そのとき私は確信しました。「ああ、若い人たちがいる限り、うちの新

た。「おつ」「いけるぞ！」。われわれの大きなほどよめが、それにかぶさります。輪転機で印刷される新聞を奇跡を見る思いでながめました。今でも忘れません。鼻に新聞をこすり付けていた若い社員が「インクつて、ホントいい匂いがする」と言つたのです。そのとき私は確信しました。「ああ、若い人たちがいる限り、うちの新

た。「おつ」「いけるぞ！」。われわれの大きなほどよめが、それにかぶさります。輪転機で印刷される新聞を奇跡を見る思いでながめました。今でも忘れません。鼻に新聞をこすり付けていた若い社員が「インクつて、ホントいい匂いがする」と言つたのです。そのとき私は確信しました。「ああ、若い人たちがいる限り、うちの新

た。「おつ」「いけるぞ！」。われわれの大きなほどよめが、それにかぶさります。輪転機で印刷される新聞を奇跡を見る思いでながめました。今でも忘れません。鼻に新聞をこすり付けていた若い社員が「インクつて、ホントいい匂いがする」と言つたのです。そのとき私は確信しました。「ああ、若い人たちがいる限り、うちの新